

「快報 風険消息」は、中国に拠点をお持ちの企業の皆様にお届けするリスク情報誌「中国風険消息」の速報版です。

2015 年 7 月 7 日

地域ごとの降雨の傾向と豪雨・台風対策チェックリスト

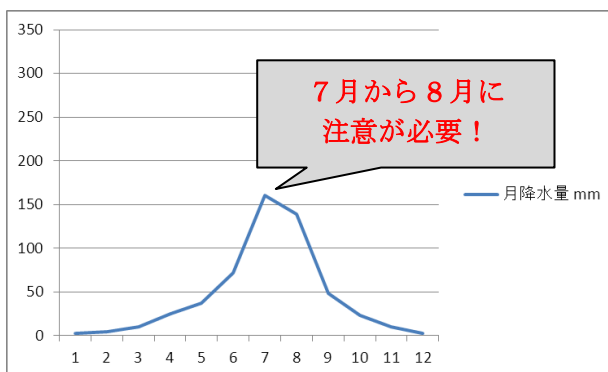
中国大陸沿岸部では豪雨・台風により、毎年のように甚大な被害が発生している。また、温暖化ともあいまって、集中豪雨等の増加、台風の勢力の強大化等の傾向も見られる。本稿では、日系企業が集積している4つの地域（北京市、上海市、江蘇省、広東省）における降雨の傾向を記したうえで、豪雨・台風対策に関するチェックリストをご紹介します。

1. 主要都市における降水量データと降雨の傾向

日系企業が比較的集積している以下の4つの地域について、降水量データ（出典：日本国気象庁）と当該地域の降雨の傾向を簡潔にまとめた（参考として、各地域のあとに東京における降水量データを付した）。地域により差はあるものの、概ね7月～9月にかけて豪雨等により急激に降水量が増大する。
今後、各企業におかれては着実に対策を講じることをお勧めする。

(1) 北京市

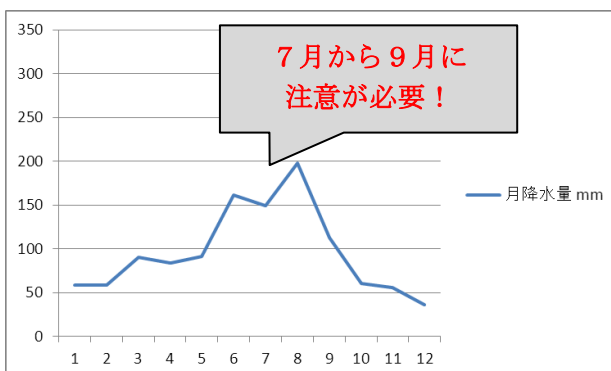
＜降水量データ＞



●北京市では、年間降水量は 500 mm を超える程度とさほど多くない。但し、7月の平均降水量は 150 mm を超える。過去に北京を襲った豪雨は、6月下旬から7月にかけて発生するものが多く、注意が必要である（2004 年「7・10」豪雨、2011 年「6・23」市内大豪雨、2011 年「7・24」密雲・平谷大豪雨、2012 年「7・21」北京大豪雨等）。

(2) 上海市

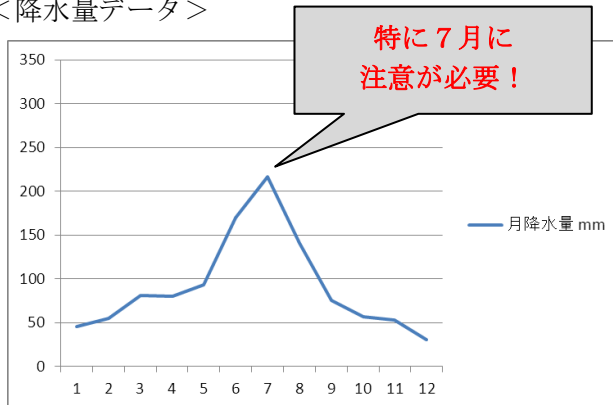
＜降水量データ＞



●上海市では、年間降水量は 1,100mm を超える。また、梅雨前線の影響を受ける6月の平均降水量は 150 mm を超え、台風が襲来する8月には 200 mm に達し、ピークとなる。また、近年は、都市化に伴うヒートアイランド現象が発生しており、これに伴う集中豪雨も増えており、注意が必要である。

(3) 江蘇省

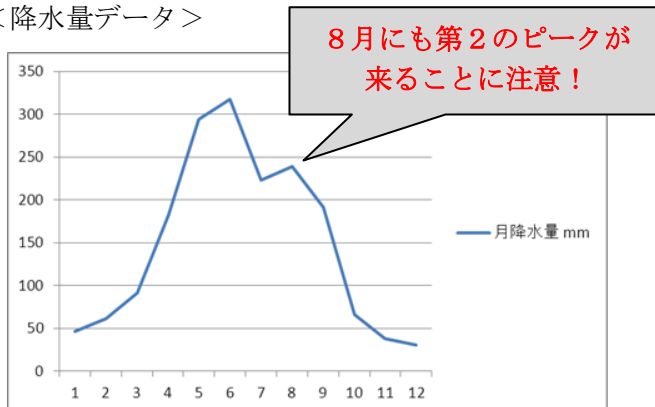
<降水量データ>



●江蘇省（左記データは南京市）では、年間の降水量は 1,100 mm 弱となる。降水量は7月がピークとなり、200 mm を超える。江蘇省東部の無錫、蘇州、昆山等においては、梅雨前線や台風の影響を受けるなどして大雨に見舞われることもしばしば見られ、工業園區等においては内水氾濫に注意が必要である。

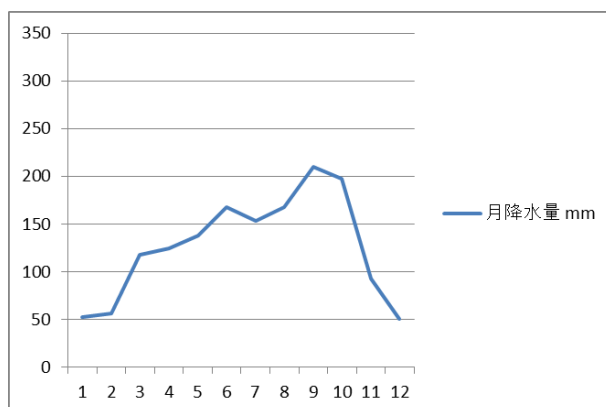
(4) 広東省

<降水量データ>



●広東省（左記データは広州市）では、年間降水量は 1,780 mm に達する。5月から6月にかけて平均降水量が 300mm を超え、ピークとなる。また、台風の襲来と重なる7月から8月にかけても 250 mm 近くの降水量を記録する。なお、台風が発生してから広東省に上陸するまでの期間は比較的短いため、台風情報のこまめなチェックと速やかな被害軽減策の実施が求められる。

【ご参考】東京における降水量データ



- ・東京における年間降水量は 1,530 mm 程度。
- ・降水量は 9 月にピークとなり 200 mm を超える。
- ・梅雨前線の影響を受ける 6 月も降雨が多い。

2. 暴雨・台風対策チェックリスト

今後、本格的に始まる台風シーズンに向けて、以下のチェックリストを参考にハード面とソフト面の対策の強化を図ることをお勧めする。

(1) ハード面での対策チェックリスト

観点		項目	レ	
建物等	屋根	屋根に欠損（亀裂や穴等）がある場合は穴埋めや補強をしたか。		
		スレート等の屋根材はしっかりと固定されているか。		
		庇を固定する金具等に緩みはないか。		
	外壁	外壁にひび割れや欠損、剥がれがないか。留め付け金具に緩みがないか。		
		開口部	戸締りはしっかりと行ったか。	
			窓や明り取りにひび割れや欠損がないか、窓や明り取りはガムテープ等で補強する必要があるか。	
	防水板を設置したか。			
	シャッター	地面との間に隙間がないか、隙間がある場合は、土嚢等で隙間を埋めたか。		
	周辺	構内のアンテナ・ポール等は補強したか。		
強風により飛散する恐れのあるものは除去したか。				
倒れやすい樹木等は補強されているか。				
貨物（在庫品）等	屋内保管	屋内貨物であってもシート掛けされているか。		
		入口・窓際付近を避け、2階等安全な場所への貨物の移動を検討したか。		
		屋内の配水管の直下に重要な設備や在庫品が置かれていないか。		
	屋外保管	倉庫等（屋内保管）への移動を検討したか。		
		屋外保管が不適当な貨物が軒下等に仮置きされていないか。		
		完全に水密になるようカバーが掛けられ、地面に固定されているか。		
排水等	排水ポンプは稼働できる状態にあるか。			
	構内で相対的に排水能力の劣る箇所を把握しているか（排水管の径が不十分な箇所等）。当該箇所に水が滞留した場合の対応は検討したか。			
	建物周辺・屋上の排水溝は詰まっていないか。			
その他	緊急通信設備は稼働するか。			
	人的・物的被害が発生した場合に必要な医薬品、応急補修機材・器具等を準備しているか。			
	停電発生時の対応策を検討したか。			

(2) ソフト面（会社ルール・体制面）での対策チェックリスト

観点	項目	レ
■予知対応（豪雨・台風等が襲来する前）ルールの明確化		
1. 担当組織と役割	気象情報（台風の到来や河川等の氾濫に関する情報）を収集する部課が明確になっているか。	
2. 情報の整理、報告、指示	収集した情報の報告ルート（経営層等へ）が明確になっているか。	
3. 出社／退社基準	台風等の到来が予想される場合の出社／退社基準が明確になっているか。	
4. 物的被害軽減対策の実施組織	豪雨・台風等が襲来する前の物的被害軽減対策を実施する組織が明確になっているか。	
5. 被害軽減対策の実施内容	被害軽減対策の実施内容および実施箇所が明確になっているか。	
■初動対応（豪雨・台風等が襲来した後）ルールの明確化		
1. 緊急時体制のトリガー	大きな被害を受けた場合の緊急時対応組織（対策本部等）を組成する基準が明確になっているか。	
2. 緊急時体制の役割	緊急時対応組織内の役割分担が明確になっているか。	
3. 被害情報の収集（社内）	社内の被害情報の収集について対応内容が明確になっているか。	
4. 被害情報の収集（社外）	社外の被害情報の収集について対応内容が明確になっているか。 （社外の被害情報とは、重要業務を支える社外のリソース・サプライヤー、外部委託先等-についての被害情報を指す）	
5. 被害拡大防止対応	二次災害の防止措置の内容およびこれに従事する要員が明確になっているか。	
	負傷者が出た場合の措置（対応者、応急対応内容、搬送先等）が明確になっているか。	
	電力供給の緊急停止措置（対応者、対応内容等）が明確になっているか。	
	システムの緊急停止措置（対応者、対応内容等）が明確になっているか。	
6. 安否確認	役職員の安否確認方法が明確になっているか。	

瑛得管理諮詢(上海)は、中国 上海に設立されたMS&ADインシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等へのリスク調査や、BCP策定等の各種リスクコンサルティングサービスを提供させて頂いております。お問い合わせは、三井住友海上(中国)の営業担当者または下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

<お問い合わせ先>

瑛得管理諮詢(上海)有限公司（日本語表記: インターリスク上海）

上海市浦東新区陸家嘴環路 1000 号 恒生銀行大廈 14 楼 23 室

TEL:+86-(0)21-6841-0611(代表)